

発表のポイント

23年度1Qは国内事業の収益改善や TAA*¹、UWH *²の増益効果等により、
棚卸資産影響前営業利益は増益

売上収益 2,111億円(前年同期比 △451億円)、棚卸資産影響前営業利益 110億円(前年同期*³比 +21億円)

1 ■ 2023年度1Q 総括

- ✓ 国内: 価格改定や市況連動スキーム導入により損益を確保も、一部の分野で需要停滞継続
生産混乱が解消に向かい、自動車ボディパネル材の販売量は増加
- ✓ 海外: UWHの損益好転に加え、TAAも缶材需要調整局面でも品種構成・製造コスト改善等により増益

2 ■ 2023年度 通期業績見通しは期初予想から変更なし

- ✓ 自動車関連分野は、生産混乱の解消を受け、日本、UWH共に損益好転を見込む
- ✓ 北米・東南アジアで缶材需要が調整局面も、価格改定や品種構成最適化等により、損益好転を図る
- ✓ エネルギー、添加金属の高騰リスクについては、市況連動のスキームを通年で適用

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc. *2 UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

*3 2022年度1QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

1. 2023年度 第1四半期業績

2. 2023年度 業績見通し

3. 国際財務報告基準(IFRS)の任意適用

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

1. 2023年度 第1四半期業績



業績 サマリー

棚卸資産影響前営業利益 110億円(前年同期*1比 +21億円)

営業利益 82億円(前年同期比 △ 95億円)

■ **数量：280千トン 前年同期*2比 △ 73千トン**

- 缶材:北米を中心とした缶材の在庫余剰の影響を受け、UATH(タイ)*3、TAA(米国)で販売が減少
- 自動車関連:生産混乱の解消を受け、回復基調

■ **棚卸影響前営業利益：前年同期比 +21億円**

◎増益要因

- 国内事業の損益好転
(エネルギー価格、添加金属等の高騰分価格転嫁等)
- 品種構成、製造コスト改善等によりTAAが増益

△減益要因

- 北米・東南アジア缶材需要の一時的な鈍化によるUATHの業績悪化

■ **中間配当を実施予定**

- 1株当たり配当金を中間期40円、期末45円の85円で予定
- 連結配当性向は20～30%を目安とする

*1 2022年度1QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

*3 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

第1四半期 業績

(単位:億円)

	2022年度 1Q*1 (A)	2023年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
売上収益	2,562	2,111	△ 451
棚卸資産影響前 営業利益	89	110	21
棚卸資産影響	88	△ 28	△ 116
営業利益	177	82	△ 95
親会社の所有者に 帰属する当期利益	128	29	△ 99
Adjusted EBITDA*2	175	200	25

*1 2022年度1QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります
国際会計基準(IFRS)の適用にあわせ、UATHを含む一部グループ会社の会計期間を12月決算から3月決算に変更しております

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位:億円)

	2022年度 1Q* (A)		2023年度 1Q (B)		増減 (B) - (A)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	2,317	193	1,823	98	△ 494	△ 95
加工品・関連事業	485	4	513	9	28	5
(調整額)	△ 241	△ 20	△ 224	△ 25	17	△ 5
合計	2,562	177	2,111	82	△ 451	△ 95

* 2022年度1QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 1Q*1 (A)	2023年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*2	229	187	△ 42
箔 地	13	11	△ 2
I T 材	3	1	△ 2
自動車材	30	33	3
厚 板	16	7	△ 9
その他一般材	62	40	△ 22
合 計	353	280	△ 73
	国内市場向け 128 海外市場向け 225	国内市場向け 116 海外市場向け 164	国内市場向け △ 12 海外市場向け △ 61

*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

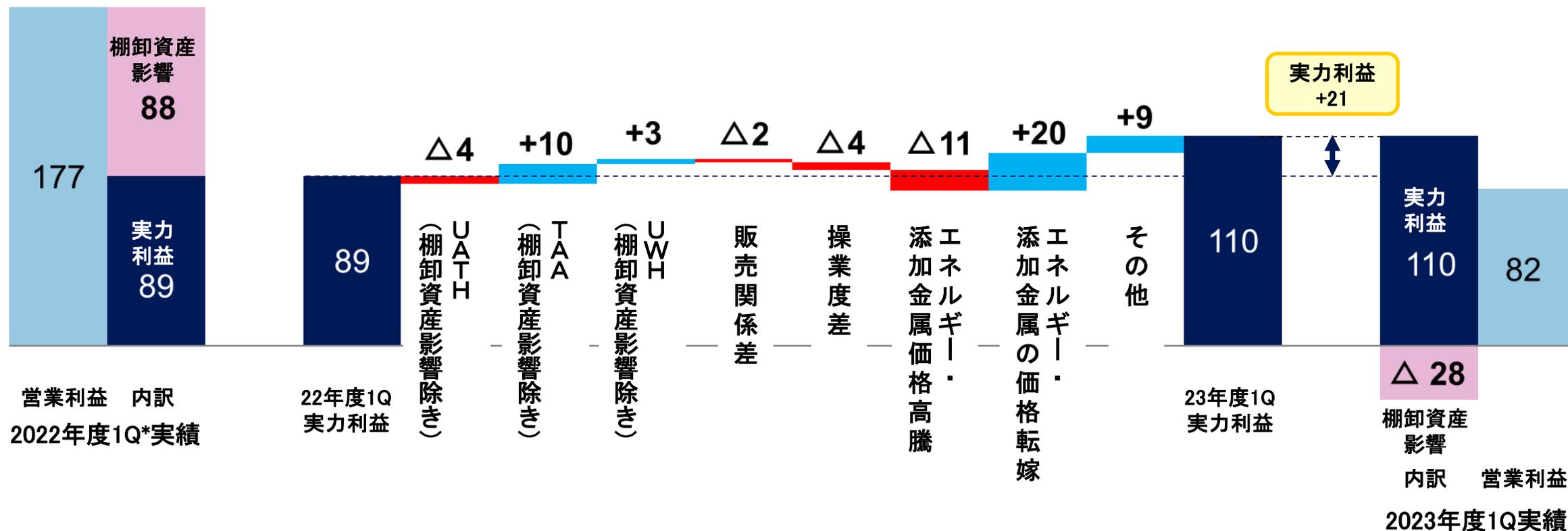
*2 内部取引控除後の数量

棚卸資産影響前連結営業利益分析 (2022年度1Q → 2023年度1Q)

棚卸資産影響前連結営業利益: **89億円** (2022年度1Q) → **110億円** (2023年度1Q)

(棚卸資産影響額: 88億円(2022年度1Q) → $\Delta 28$ 億円(2023年度1Q)、前年同期差 $\Delta 116$ 億円)

(単位: 億円)



* 2022年度1QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

連結貸借対照表

販売数量減の影響により、棚卸資産が増加

連結貸借対照表

(単位: 億円)	23/3末* (A)	23/6末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	234	239	5
営業債権及びその他の債権	1,590	1,627	37
棚卸資産	2,287	2,553	266
その他の流動資産	266	303	37
有形固定資産	3,657	3,757	100
その他の非流動資産	924	948	24
資産合計	8,957	9,427	470
営業債務及びその他の債務	1,394	1,449	55
借入金	3,404	3,702	298
その他	1,480	1,453	△ 27
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,465	2,586	121
非支配持分	215	237	22
負債及び資本合計	8,957	9,427	470

資金運用表

	用途	調達
長期資金	設備投資等	89
	法人税等支払	9
	長期資金余剰	69
短期資金	運転資金増減他	180
	短期資金不足	180

長期資金余剰 69億円
 短期資金不足 180億円
 収支合計 △111億円

長期資金: 財務基盤の強化の源泉となる長期資金の創出
 短期資金: 棚卸資産等運転資金の増加

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高が増加するも、2023年度末目標1.2は堅持する

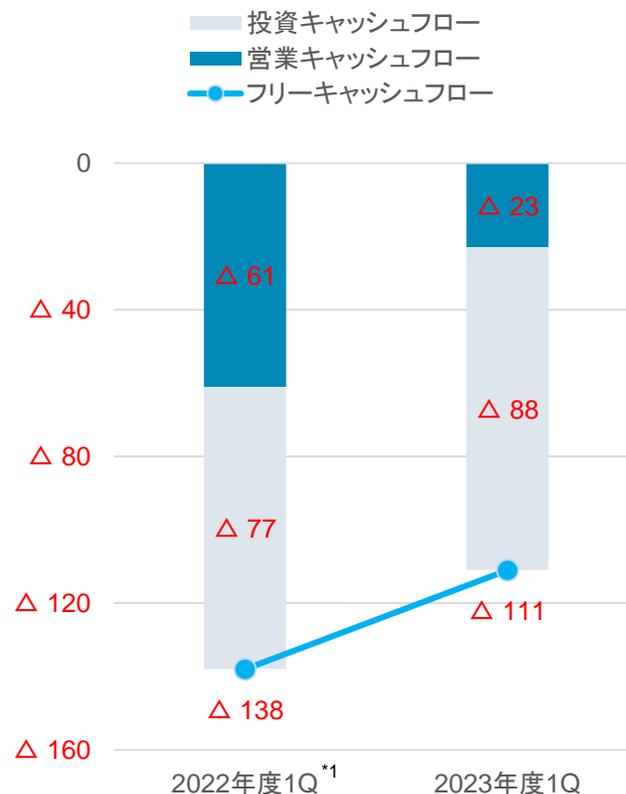
2023年度1Q 連結キャッシュフロー(暫定)

(単位:億円)

税引前利益	76
減価償却費	90
債権債務増減他	△ 189
営業キャッシュフロー計	△ 23
設備投資 他	△ 89
フリーキャッシュフロー	△111
ファイナンススキーム・配当他	△ 101
現預金増減(△は増加)	△ 3
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△ 83
有利子負債(△は増加)	△ 298

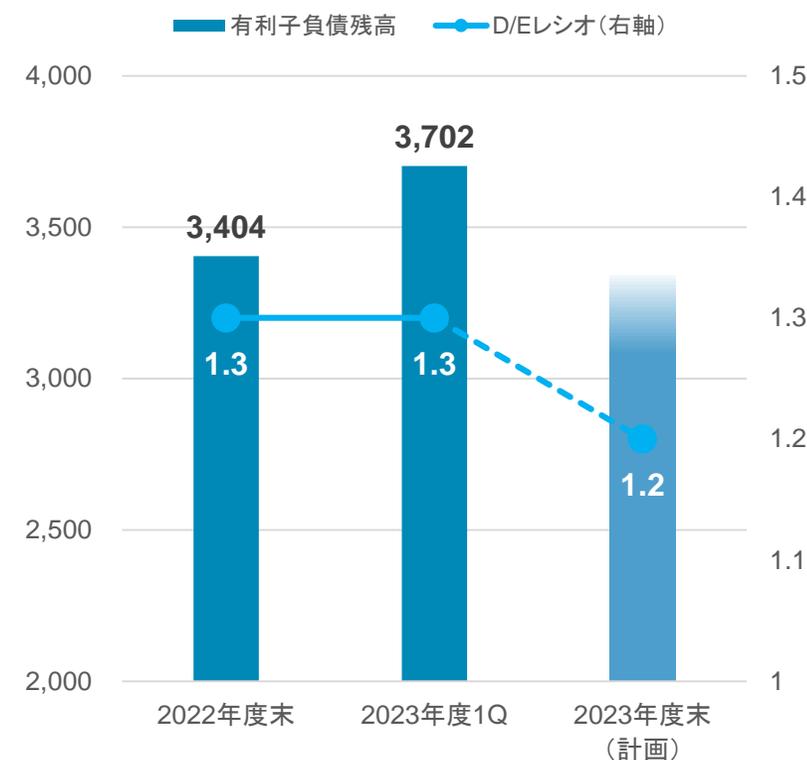
連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ^{*2}

(単位:億円)



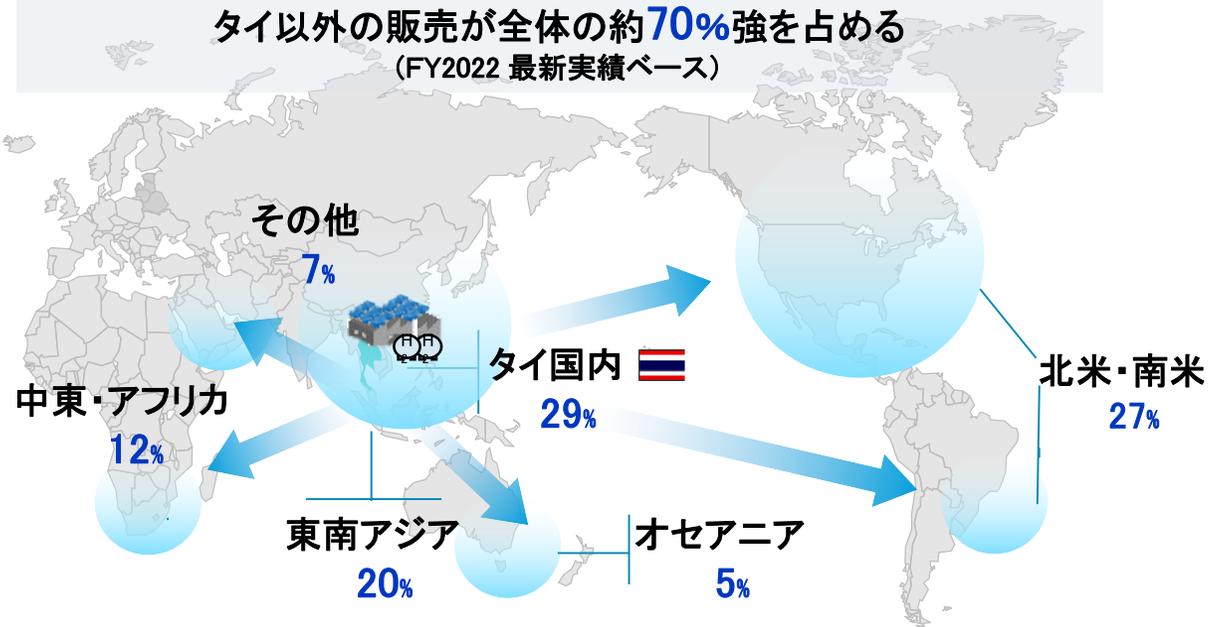
*1 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

タイ(UATH)の状況 ～2023年度1Q 総括

北米・東南アジア缶材需要が一時的に落ちた影響を受け、販売数量が減少

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- 需要の急変による販売量の変動
- グローバルで中長期的に成長継続
- 新規の顧客の材料認定を完了し、中長期的に成長する需要に対応していく
- 最適生産の追及による生産性の向上
- ロールマージンの改定による収益の確保

総括

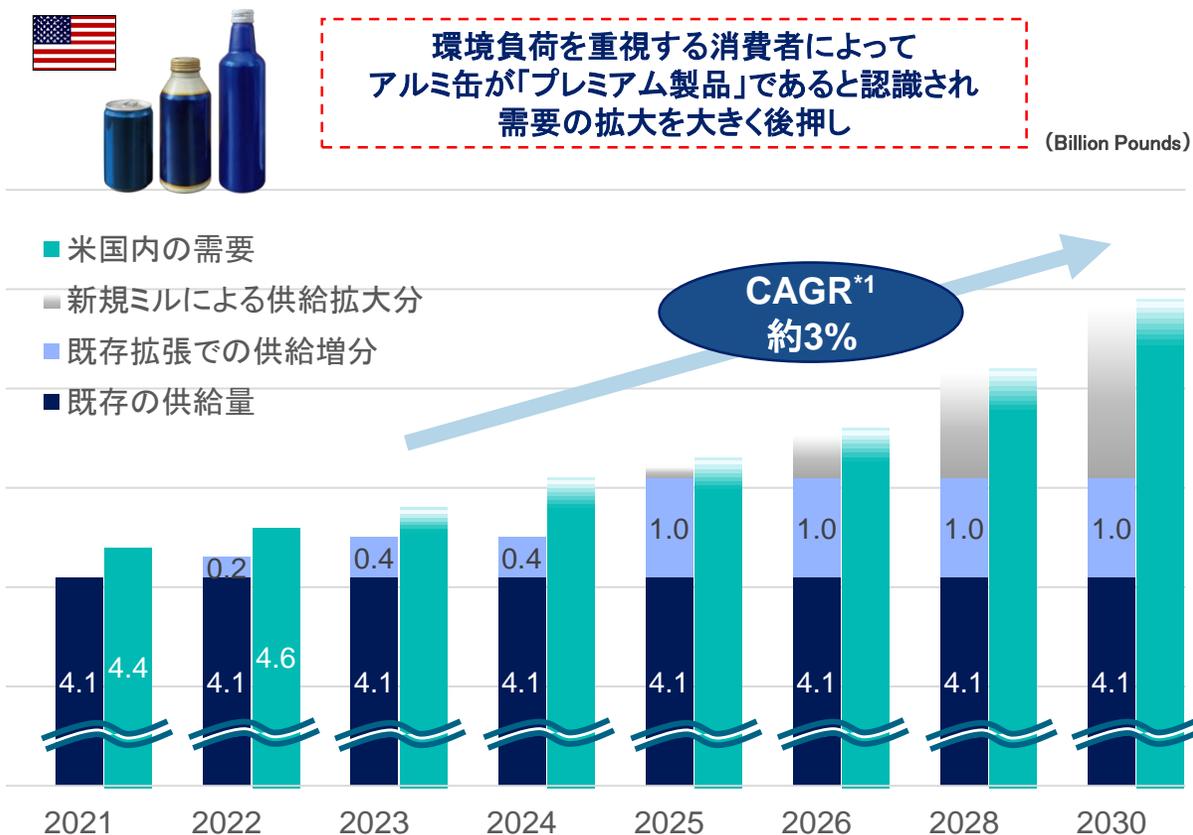
- 需要** : 北米・東南アジア缶材需要の需要回復まで期間がかかるも、中長期的には引き続き成長を見込む
- 販売** : 自動車向け熱交換器材、エアコンフィン材の販売が好調も、缶材の販売が落ち込む
- 生産量** : 20千t/月(2023年4～6月)
- 販売量** : 20千t/月(2023年4～6月)
- 損益** :

	(単位:億円)		
	22年度 1Q* (4～6月)	23年度 1Q (4～6月)	前年度比
売上収益	525	340	△ 185
営業利益	6	△ 14	△ 20
棚卸資産影響前 営業利益	4	0	△ 4

米国(TAA)の状況 ~2023年度1Q 総括

在庫調整および市況の影響を受け販売数量は減となるも、品種構成・製造コストの改善等で収益確保

米国缶材需要と国内供給能力の推移



出典：UACJ調査による

*1 CAGR：複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率

*2 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

総括

- 缶材需要：足元での在庫調整の影響が長引く見通しも、長期的には旺盛な需要環境が継続する
- 販売量：33千t/月(2023年4~6月)
※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力：約450千t/年体制確立
- 増産対応：北米生産拠点の設備増強

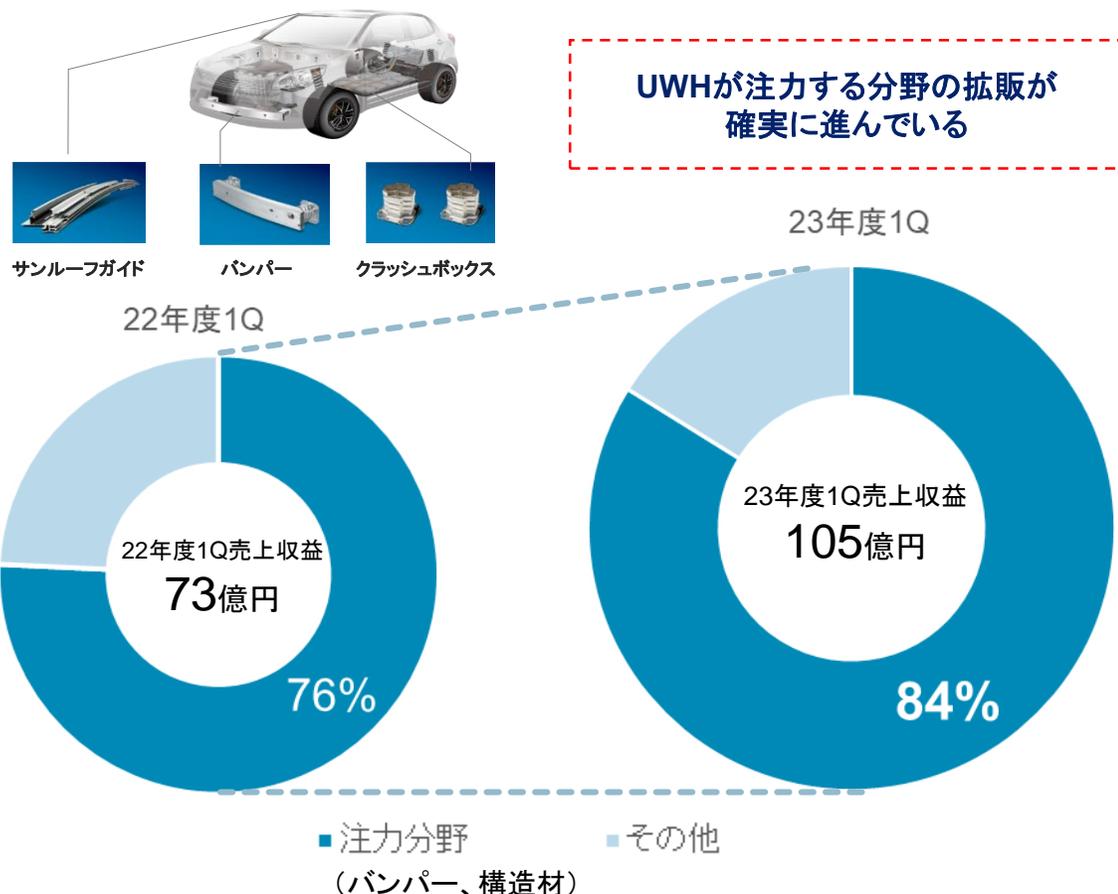
(単位:億円)

損益	22年度 1Q*2	23年度 1Q	前年度比
売上収益	829	570	△ 259
営業利益	96	66	△ 30
棚卸資産影響前 営業利益	63	73	10

米国(UWH)の状況 ~2023年度期1Q 総括

サプライチェーンの混乱は解消され、直近の顧客の生産台数が回復し増収増益

品種構成の推移



総括

- 市場環境** : 生産の混乱の解消を受け、北米自動車市場は復調傾向にある
 ・北米市場のEV化は継続し、自動車部品に採用されるアルミニウム製品は拡大する予測
- 販売** : 顧客の生産台数の回復により、売上収益が増加

損益

(単位:億円)

	22年度1Q*	23年度1Q	前年度比
売上収益	73	105	32
営業利益	△ 8	1	9
棚卸資産影響前営業利益	△ 4	△ 1	3

* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

2. 2023年度 業績見通し



事業環境認識

自動車関連分野は、生産混乱の解消を受け需要が回復。
一方で、北米、東南アジアの缶材および、国内の厚板等は、期初想定から需要回復が遅れる見通し

日本

缶材： コロナ禍において増加した家飲み需要が鈍化するも底堅い需要は継続
自動車： お客様の生産混乱解消を受け、期初想定通り、自動車パネル材を中心に需要が回復
厚板： 半導体需要の回復時期が想定より遅れる影響を受ける

北米

缶材： 在庫調整、インフレ影響による販売減からの需要回復が期初想定より遅延
自動車部品： お客様の生産混乱解消を受け、需要は回復基調

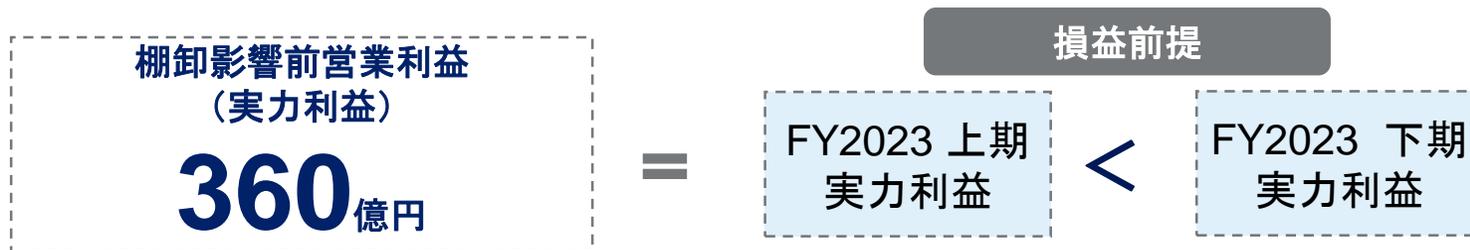
アジア

缶材： 東南アジアのお客様の在庫調整に加え、北米缶材需要回復遅れの影響を受ける

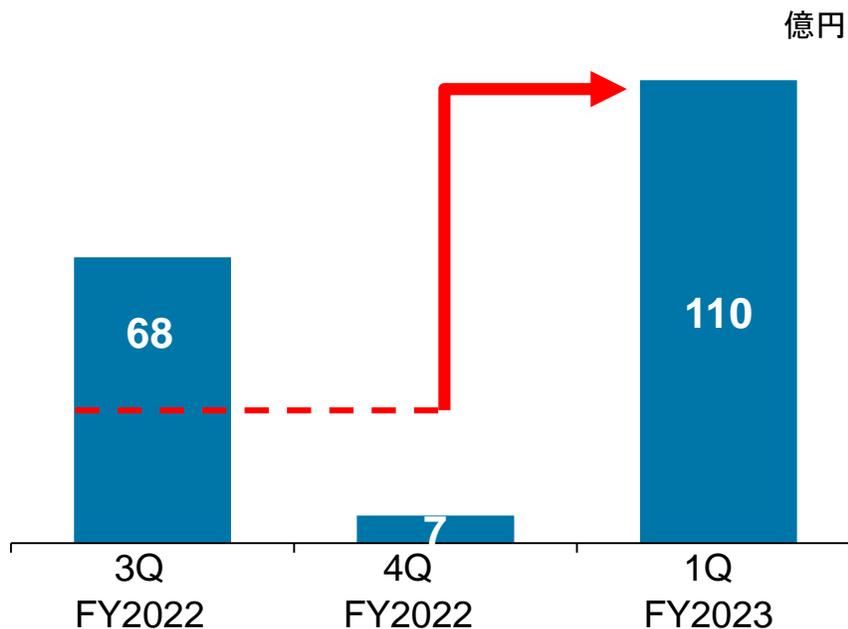
事業環境認識

2023年度通期業績見通しの前提

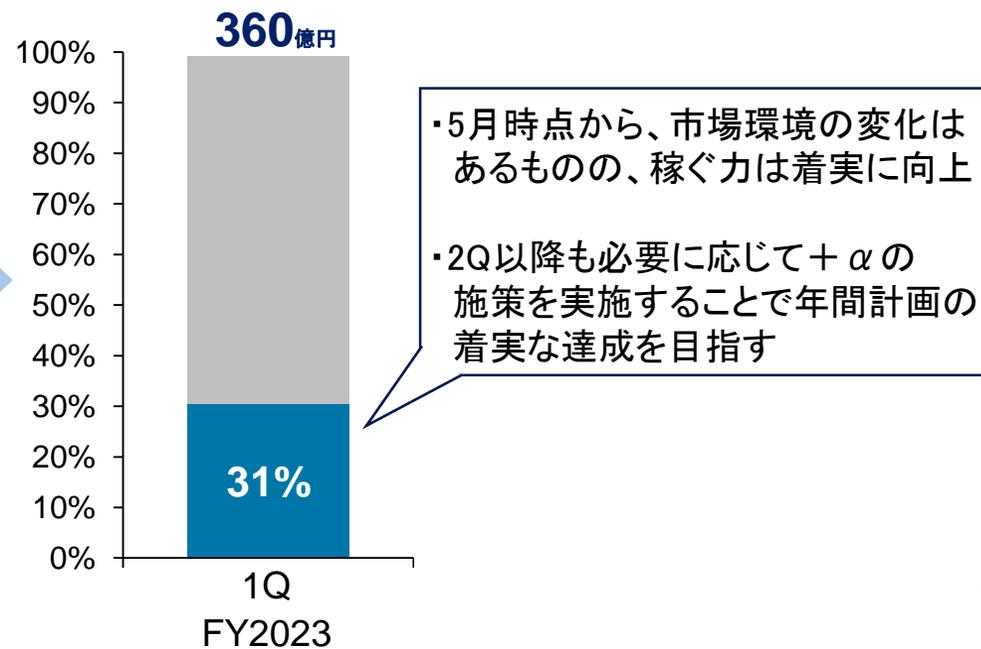
- FY2023上期: FY2022下期から続く国内アルミ圧延品全般及び、海外缶材の調整が継続すると想定
- FY2023下期: 北米、東南アジア缶材の需要が徐々に回復、国内も自動車関連中心に需要が回復すると想定



棚卸影響前営業利益



FY2023 棚卸影響前営業利益の進捗率



・5月時点から、市場環境の変化はあるものの、稼ぐ力は着実に向上

・2Q以降も必要に応じて+αの施策を実施することで年間計画の着実な達成を目指す

実力利益は FY2022 下期 より向上

2023年度 通期業績見通し(2023年5月11日公表)【IFRS】

通期業績見通しに変更なし

(単位:億円)	2023年度 見通し	2022年度 実績	差異
売上収益	9,700	9,557	143
営業利益	340	107	233
棚卸資産影響前 営業利益	360	197	163
棚卸資産影響	△ 20	△ 90	70
親会社の所有者に帰属する 当期利益	150	△ 13	163
Adjusted EBITDA	723	532	191
年間配当	85円/株	85円/株	—

3. 国際財務報告基準(IFRS)の任意適用



IFRSの適用について

事業活動のグローバル化に対応し、会計基準にIFRS適用

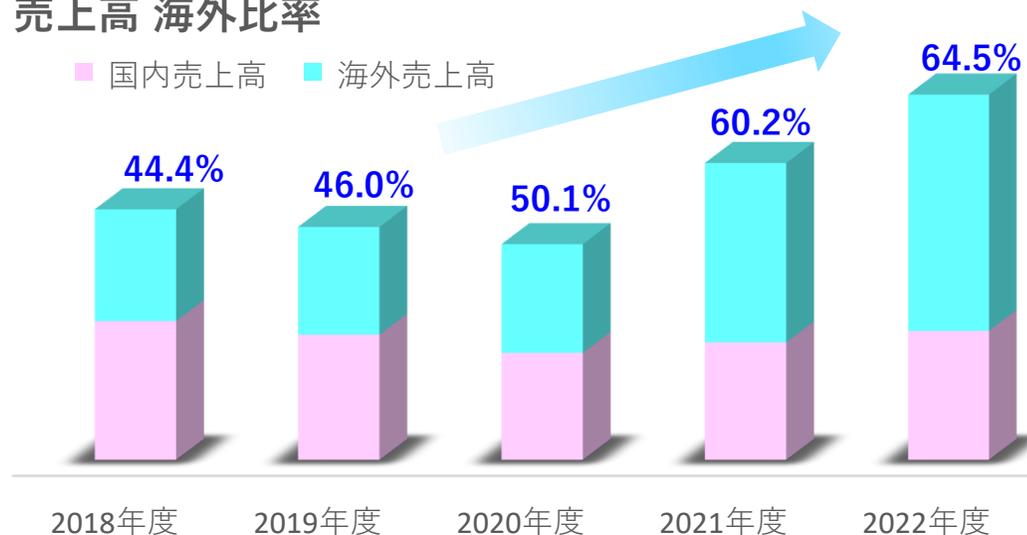
当社グループの売上高・投下資本等に占める海外比率は毎年増加しており、
今後、更に増加していく見込み

➡ **グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に、会計面・情報開示面の体制を整備**

➡ **IFRSを適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたい**

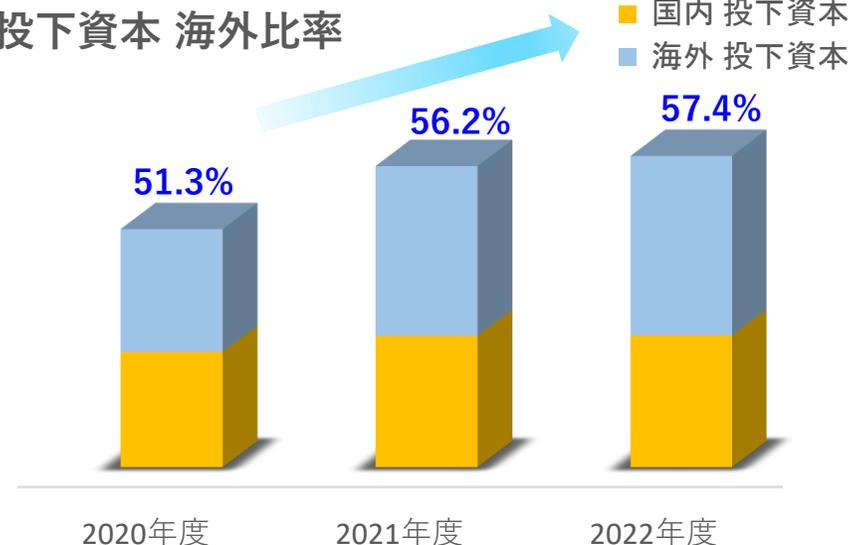
売上高 海外比率

■ 国内売上高 ■ 海外売上高



投下資本 海外比率

■ 国内投下資本
■ 海外投下資本



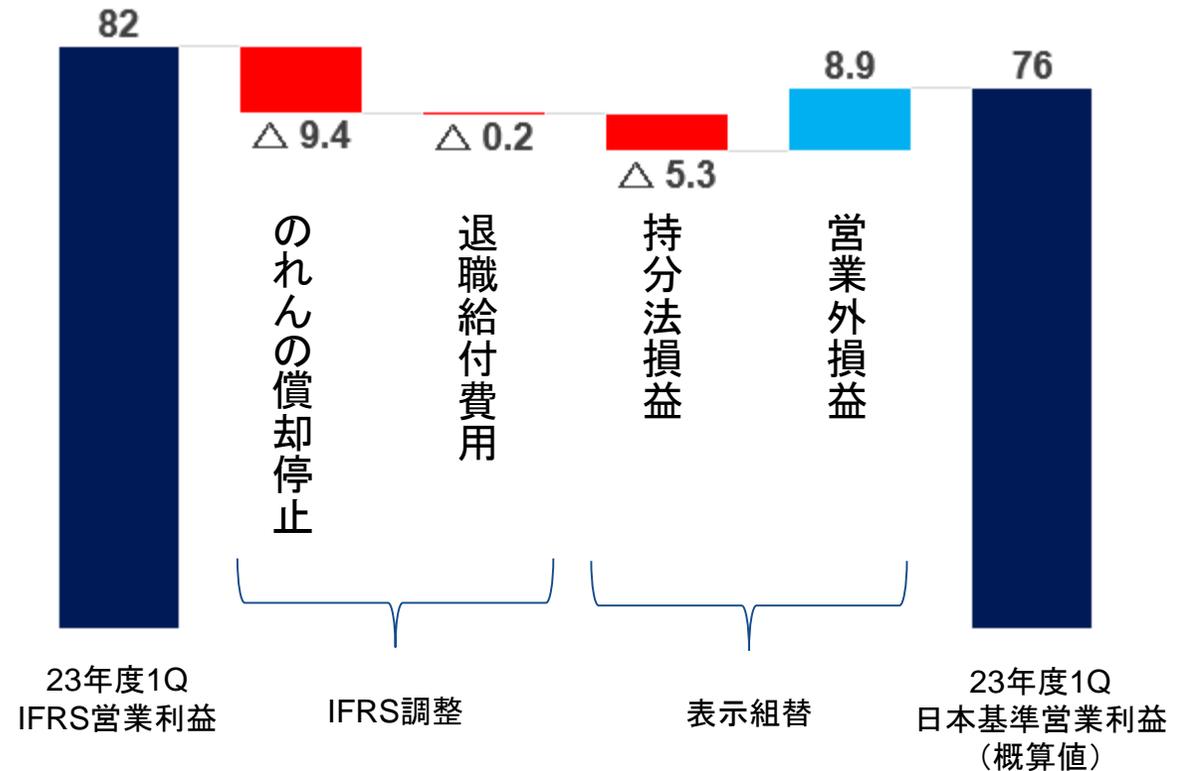
日本基準とIFRSの業績指標比較と変化分析

2023年1Q実績比較(億円)

IFRS		日本基準*	
売上収益	2,111	売上高	2,114
営業利益	82	営業利益	76
-		経常利益	66
棚卸資産影響前 営業利益	110	棚卸資産影響前 経常利益	94
棚卸資産影響	△ 28	棚卸資産影響	△ 28
最終利益	29	最終利益	20

- ✓ IFRS適用に伴い業績管理の指標として**営業利益**を使用
- ✓ 営業利益でIFRS適用により以下の調整が生じた
 - のれんの償却停止
 - 持分法損益
 - 特別損益
 - 営業外損益(金融収益費用除く)
 - その他

IFRS適用に伴う営業利益の変化



4. サステナビリティへの取り組み



企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



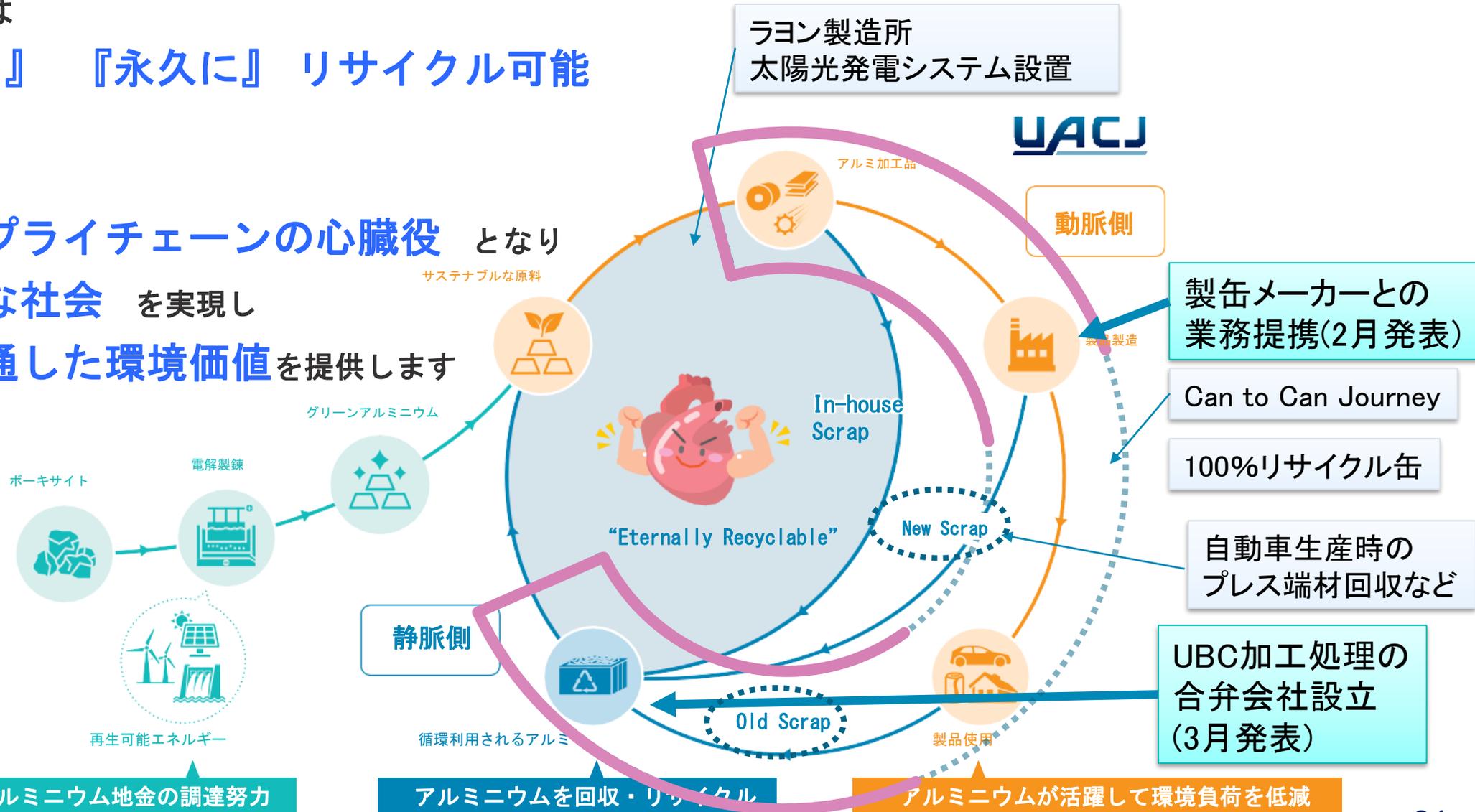
社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは
『何度でも』 『永久に』 リサイクル可能

な素材です

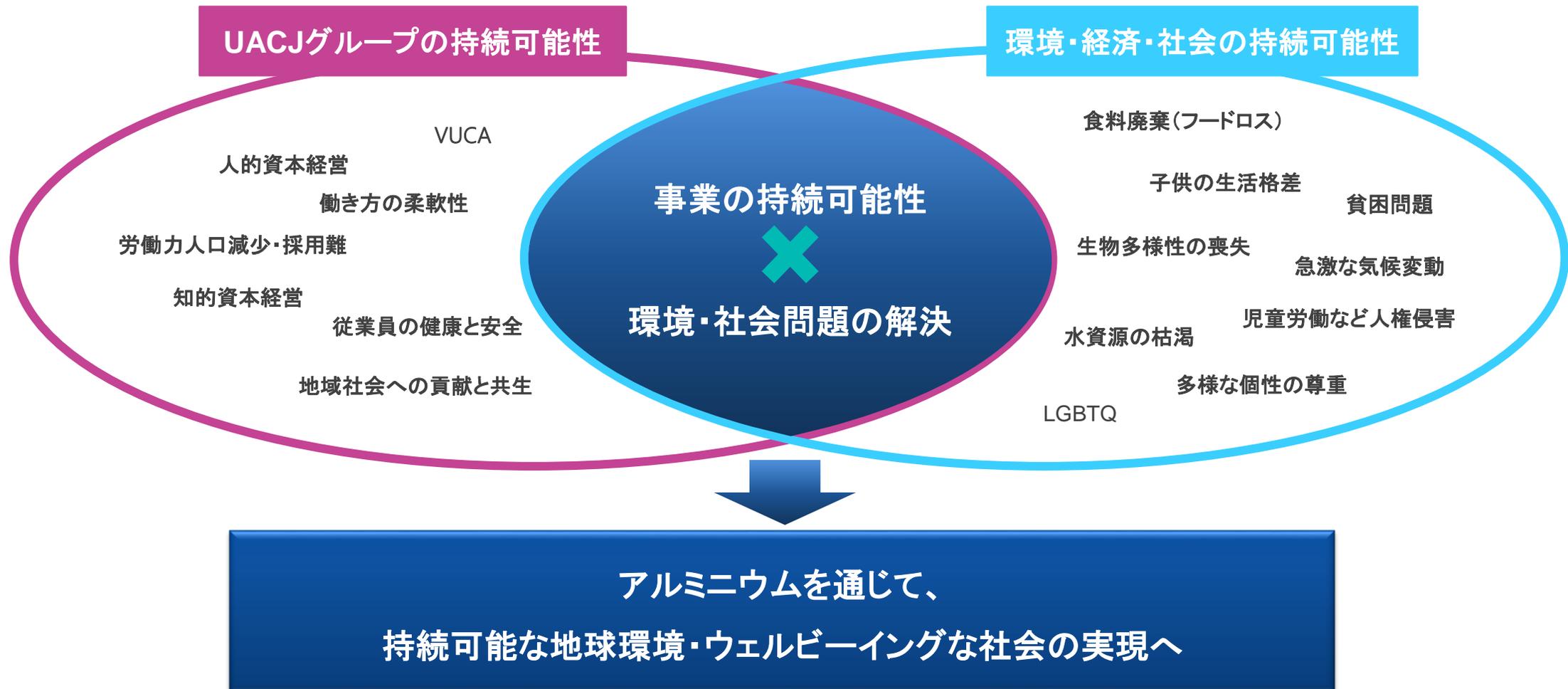
●UACJは

- ・ 循環型サプライチェーンの心臓役 となり
- ・ 持続可能な社会 を実現し
- ・ アルミを通じた環境価値を提供します



マテリアリティの見直しにむけて

変化の大きな時代、UACJの価値を創出し続けるためにマテリアリティの見直しを討議中



第1四半期 具体化した事項

UACJ SMART マスバランス ご提供開始

UACJ SMART®
Mass balance

- 環境配慮型のアルミ製品ブランド「UACJ SMART」に新ラインアップ「UACJ SMARTマスバランス」を加え、提供を開始
- 環境対応の選択肢が増え、保証に基づいた環境負荷低減の実現が可能に

(2023年4月公表)

DXソリューションの拡大



水の架け橋ネットワークシステムの採用

静岡銀行が本ネットワークシステムを採用。
大規模災害発生時に飲料水供給を通じて「共助」の機会を提供する

(2023年4月公表)



止水板「水用心™」実証実験

デジタル系のスタートアップ2社 (CalTa(株)、RainTech(株))との実証実験を開始し、災害に強い街づくりへの貢献を目指す

(2023年6月公表)

産学連携による技術の広がり追求



東京大学

「先制的LCA*1社会連携研究門」参画
産学の強力な連携で、技術と社会の相互作用や人材育成などの課題に取り組み、有用なLCA手法の開発と社会実装を目指す

(2023年4月公表)



東京大学と社会連携講座を開設

東京大学大学院工学系研究科とともに、次世代軽量合金の創製講座を開設。
主に自動車ボディシート用や航空宇宙機器用等の熱処理型アルミ合金において、高強度・高性能化を目指す

(2023年4月公表)

健康経営のさらなる推進



「健康経営優良法人(大規模法人部門)」認定

社員の健康の維持・増進に積極的に取り組む企業として、2022年に続き、2023年も認定を取得。
当社グループの継続的な発展は、社員の健康の保持・増進抜きには実現できないものとして、活動を展開していく



「健康経営®アライアンス」*2に参画

本アライアンスのビジョン「社員の健康をつうじた日本企業の活性化と健保の持続可能性の実現」に賛同し、当社グループの健康経営のさらなるレベルアップを目指して参画

(2023年6月参画、7月公表)

*1 Life Cycle Assessment、ライフサイクルアセスメント。製品やサービスについて、その原料調達から製造・輸送・販売・使用・廃棄・再利用に至るライフサイクル全体の環境・社会・経済への影響を定量評価すること

*2 「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標

企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営

2023年度の目標を確実に達成し、VISION2030への道筋をつくる

第三次中期経営計画の財務指標として ROE、ROIC、D/Eレシオを設定

- ⇒ ・2023年度は、第3次中期経営計画最終年度として、確実に財務指標を達成するべく利益を着実に積み上げる施策を実行する。
・資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映する。

長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 の財務指標として ROE、ROICを設定

- ⇒ 2030年の目標を確実に達成するべく、第4次中期経営計画(2024年～)において具体的な施策を検討中

財務指標 KPI

第3次中計期間

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023(予)	FY2030(目標)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.6%	10.0%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	5.5%	10.0%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	—

*1 ROIC：税引前営業利益を基に算出 *2 D/Eレシオ：劣後ローンの資本性考慮後

5. ご参考データ



第1四半期 業績【日本基準】

(単位:億円)

	2022年度 1Q (A)	2023年度 1Q* ³ (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	2,562	2,114	△ 448
連結営業利益	183	76	△ 107
棚卸資産影響前 連結経常利益	91	94	3
棚卸資産影響額	88	△ 28	△ 116
連結経常利益	179	66	△ 113
連結当期純利益* ¹	118	20	△ 98
Adjusted EBITDA* ²	180	194	14

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

*3 2023年度1Qの日本基準実績値は概算値です

セグメント別 売上高・営業利益【日本基準】

(単位:億円)

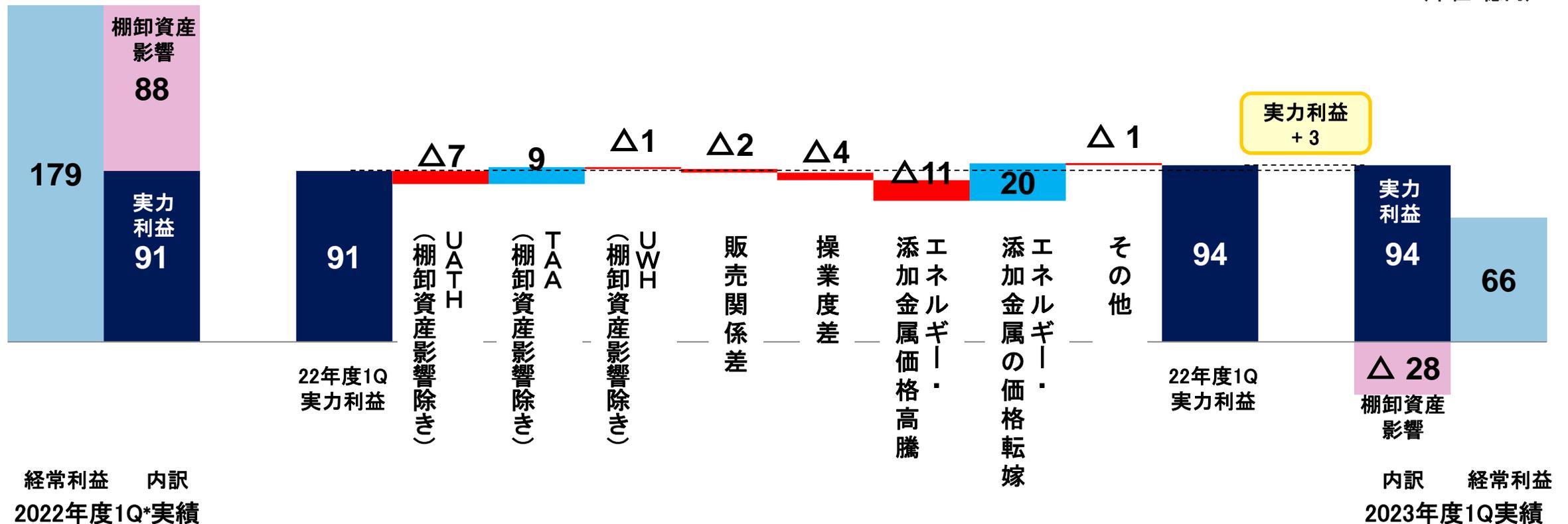
	2022年度 1Q (A)		2023年度 1Q* (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	2,317	203	1,826	98	△ 491	△ 105
加工品・関連事業	485	1	513	5	28	4
(調 整 額)	△ 241	△ 21	△ 225	△ 27	16	△ 6
合 計	2,562	183	2,114	76	△ 448	△ 107

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2022年度1Q → 2023年度1Q)【日本基準】

棚卸資産影響前連結経常利益：91億円 (2022年度1Q) → 94億円 (2023年度1Q)

(棚卸資産影響額：88億円(2022年度1Q) → △28億円(2023年度1Q)、前年同期差△116億円)

(単位：億円)



諸元と感応度

	2021年度 (3月末)	2022年度 (3月末)	2023年度 (2023年6月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	378	408	400	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	2,796	2,490	2,263	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	112	136	137	・燃料単価、添加金属:円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差:円安 が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.8	4.0	
原油 (ドバイ:米\$)	78	92	78	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

5. ご参考

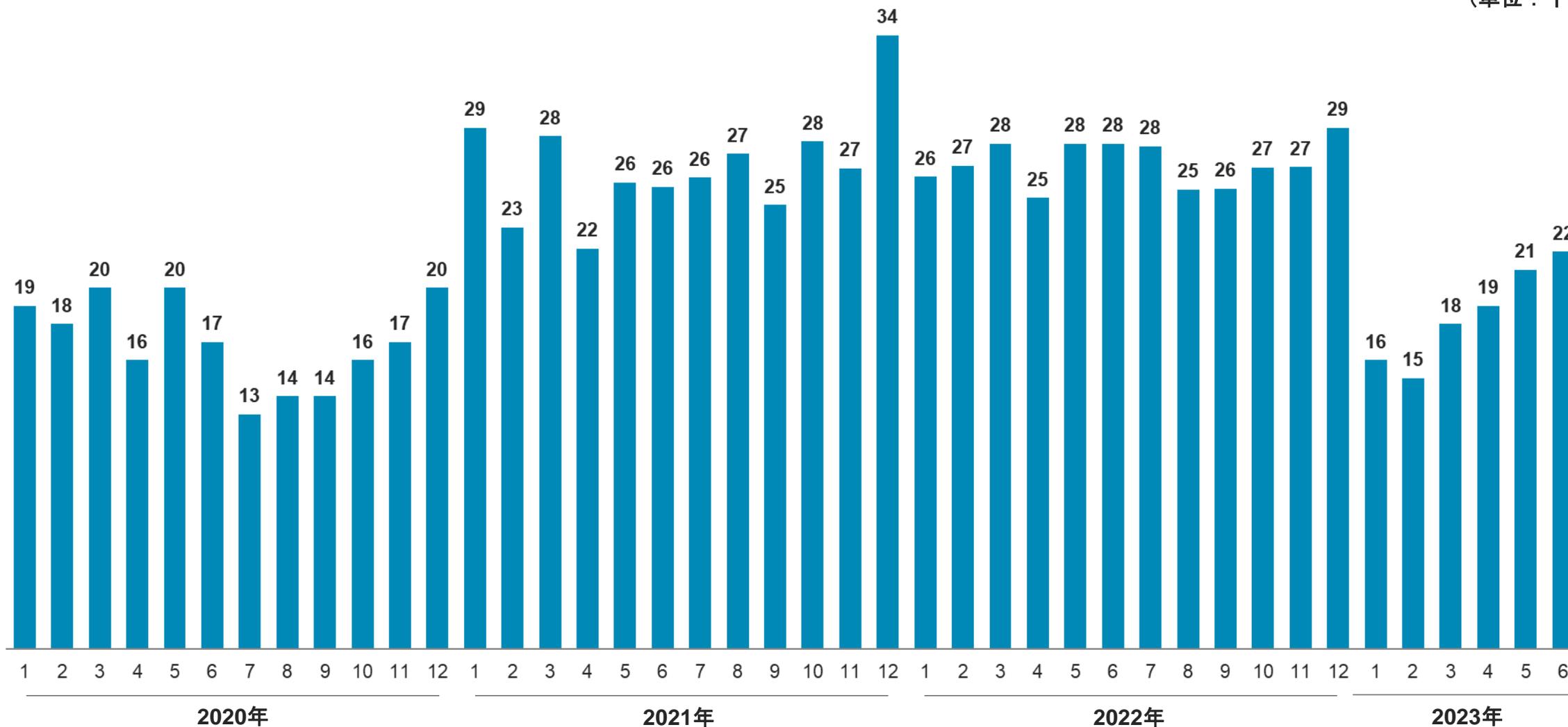
主要指標推移

(単位:億円)

						日 本 会 計 基 準				I F R S	
						2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 1Q	2023年度 (見通し)
連	結	売	上	高		6,152	5,698	7,829	9,629	2,111	9,700
連	結	営	業	利	益	101	111	595	172	82	340
棚	卸	資	産	影	響	-	-	-	-	110	360
連	結	資	産	影	響	98	62	213	161	-	-
連	結	経	常	利	益	38	60	523	87	-	-
親	会	社	株	主	に	20	△33	321	47	29	150
当	期	純	利	益	を						
設	備	一	般	投	資	143	109	129	210	32	-
投	資	戦	略	投	資	347	72	79	54	23	-
				合	計	489	181	207	264	55	-
減	価	償	却	費		312	334	340	373	90	-
有	利	子	負	債	残	3,440	3,358	3,394	3,367	3,702	-
R	O	E	(%)	1.1	△1.8	14.1	1.9	-	-
R	O	I	C	(%)	1.9	2.2	11.1	3.0	-
D	/	E	レ	シ	オ	1.56	1.56	1.36	1.25	1.3	-
				(倍)					
営	業	キ	ャ	ツ	シ	581	386	78	526	△ 23	-
投	資	キ	ャ	ツ	シ	△ 300	△ 210	△ 210	△ 269	△ 88	-
フ	リ	ー	キ	ャ	ツ	281	177	△ 132	257	△ 111	-
				フ	ロ						

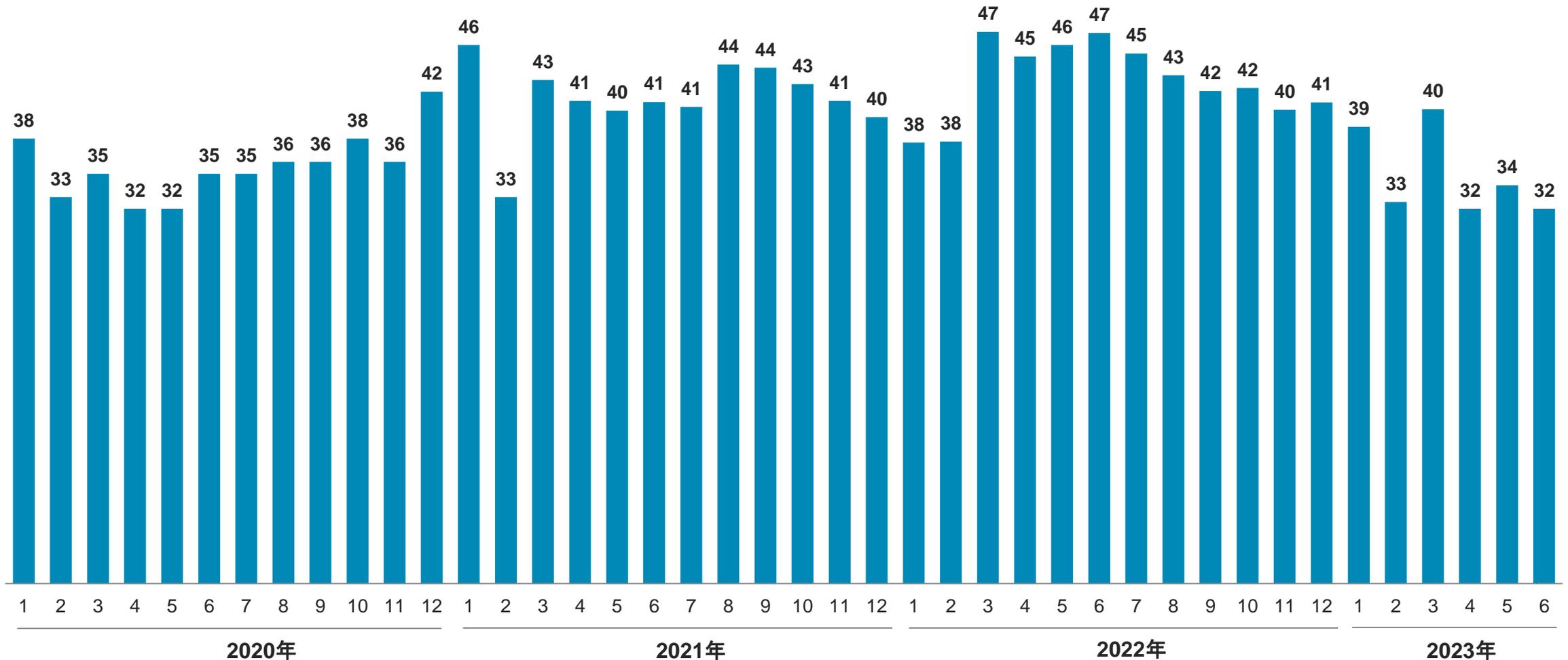
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)



TAA 月次販売量推移

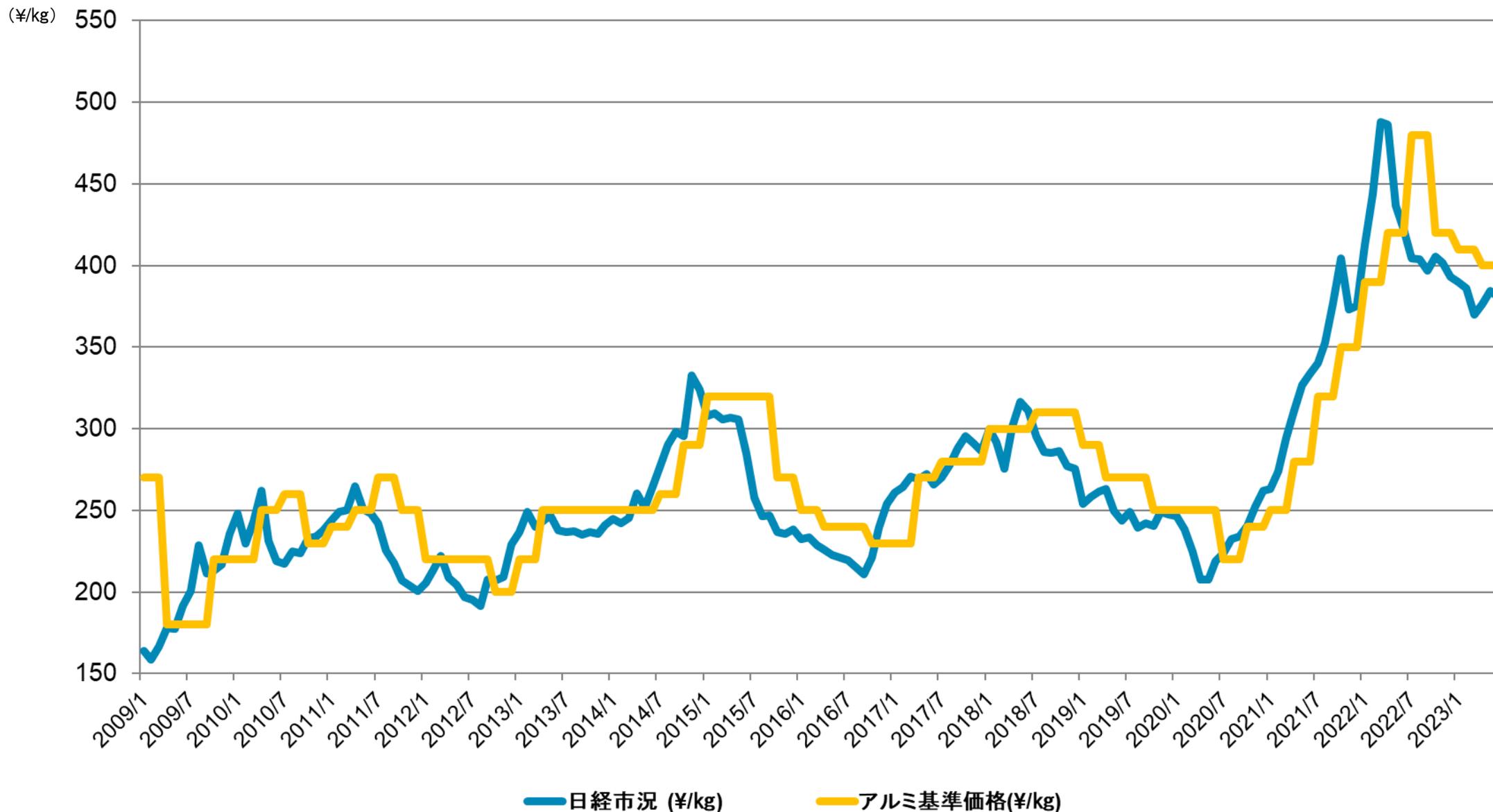
(単位：千t)



燃料単価推移



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



外部環境の変化と対応について

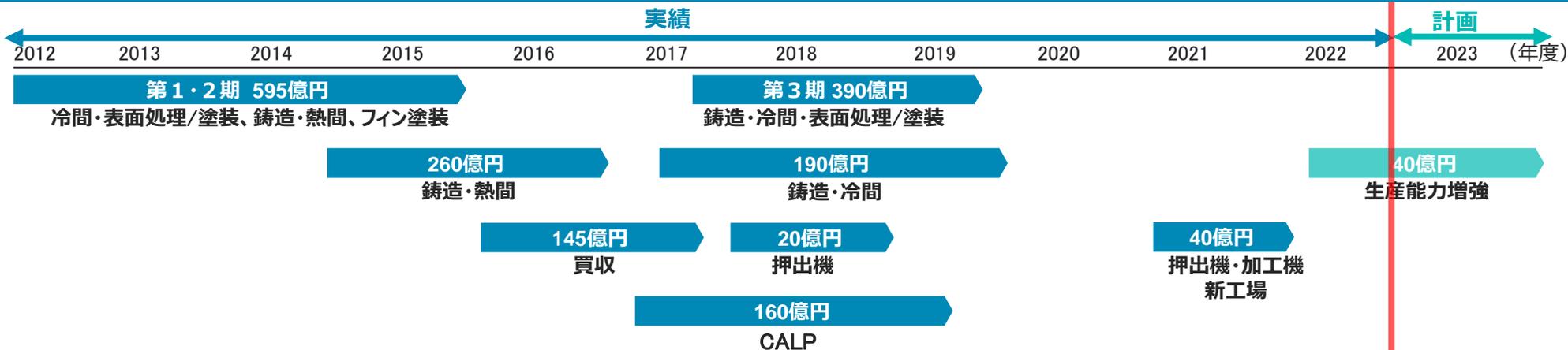
収益の安定化に向け、外部事業環境の変化に強い価格スキームを確立

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り導入済み 電力費用の追加負担分については引き続き検討	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	契約更新(新規含む) 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約期間中の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

5. ご参考

アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ



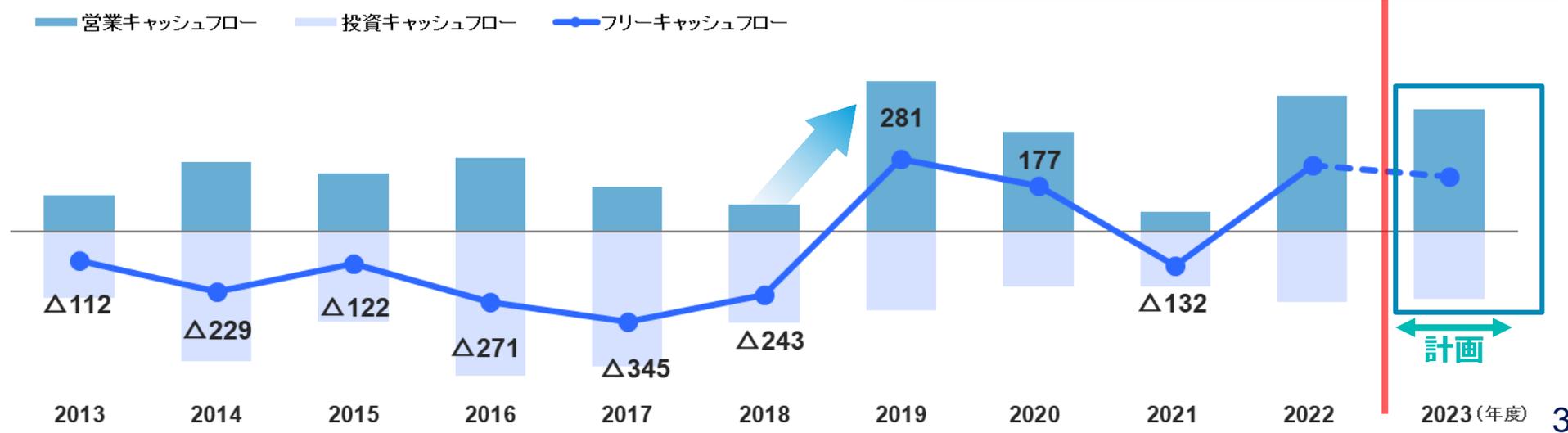
主な戦略投資/投融資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



連結キャッシュフロー

2013-2022年度 実績
2023年度 計画



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界